令和６年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業

高橋研究者による研究授業発表の様子

令和 6 年度中学校武道授業（弓道）指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本弓道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が、12月21、22日の2日間、日本武道館大会議室において5名の研究者と事務局1名の計6名が参加して実施された。

本研究事業は、新学習指導要領に準拠して、年間 8 ～ 10 時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる指導法の研究を行うことを目的としている。二日間の研究事業では、研究者 2 名による研究授業発表と第 13 回全国弓道指導者研修会の内容について、検討・協議を行った。

■初　日（12 月 21 日）

開講式では、髙橋文彦（たかはしふみひこ）全日本弓道連盟中央委員・総務部会長と端春彦（はたはるひこ）日本武道館振興課長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。

開講式後は、髙橋潤子（たかはしじゅんこ）研究者と辻尚宏（つじなおひろ）研究者より研究授業発表が行われた。

まず、高橋研究者が勤務する学校で独自に実施した中学校武道必修化のアンケートや、自身が初めて弓道授業を実施した際の指導内容を解説した。授業を実施する際に最も注意したことは安全面の確保であり、学校が聴覚支援学校であったことから、人工内耳、補聴器、メガネ等が弓を引くときに引っかからないようにしたことのほか、指導者の許可なしに弓を引かない、弓を引いている人には近づかない、的前を絶対に横切らない、矢取りは旗の合図に合わせて行ったことなどを紹介した。

続いて、辻研究者の発表になり、学校の雰囲気や風土の異なる 2 つの高校での指導実例を取り上げた。指導において意識していたこととして、「生徒に合わせて指導方法を変える」という前提のもと、大会結果にこだわる部活動ではなく、他人の成績に左右されない、指導内容を習得することを目標とした、成果（できるようになること）に焦点を当てた活動をしたことを説明した。そのほかにも、すべての部員と関わる機会を意識して作ったこと、「知行合一」を心掛け、生徒と一緒に稽古する部活動をつくるようにしたことを挙げた。

研究授業発表に続いて、2025 年 2 月に開催される第 13 回全国指導者研修会に向けた内容の検討となり、グループディスカッションで協議する課題の選定と、参加者の段位や参加目的に応じた班分け、担当講師の割り振りを行った。

■2 日目（12 月 22 日）

第 13 回全国指導者研修会の日程表案に沿って内容確認、調整を行い、前年度の研修会での反省点や参加者からの要望を踏まえ、より効率的かつ安全面に配慮した内容で実施するための指導方法を全員で検討、確認した。

閉講式では、髙橋文彦研究者による講評に続いて、端振興課長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。